

# 本のチカラで

## 豊かなココロを



1



### 乳幼児期から絵本を

乳幼児期は、言葉や心が育つ大切な時期です。赤ちゃんは、温かな声の響きとぬくもりを感じて満足し、人と言葉で気持ちを通わす喜びを知るといわれています。図書館では、赤ちゃんと保護者が絵本を介して、心触れ合う時間を持つきっかけを届ける「ブックスタート」を行っています。また、埼玉県家庭教育アドバイザーを講師に迎え、「親子の絵本講座」を年4回開催しています。絵本の話や子育ての話など、参加された保護者同士で子育ての不安や悩みを情報交換する場にもなっています。

### 学校と連携

成長の節目である小学1年生に本1冊を贈り、子供たち自身が本に出会い、本を読んでみたいという読書習慣が身につくよう「セカンドブック」事業を行っています。図書館職員と図書館ボランティアが市内小学校を訪問し、子供たちに読み聞かせによる本の紹介をしています。また、1冊でも多くの本を子



2



3



4



5



6



7

### 【写真の説明】

- ①ブックスタート事業。読み聞かせ後、絵本を贈ります
- ②おはなしのへやで行われているおはなし会の様子
- ③小学校で行われた図書館利用について学習する時間の様子
- ④親子の絵本講座
- ⑤閉架書庫
- ⑥移動図書館車「よしきり号」
- ⑦学校の図書室でブックトークの実演

供たちに届けるため、移動図書館車「よしきり号」が毎月1回ずつ学校を巡回し、児童書を中心に貸し出しを行っています。その他、図書館見学や図書館の仕事体験する職場体験を積極的に受け入れており、閉架書庫やブックポストの仕組みなど普段見ることのない裏側を見ることがができます。

### 図書館ボランティア

図書館は、多くのボランティアに支えられています。利用者の皆さんが快適に利用できるよう、返却された本などの書架配架や整理、破損図書の修理を行っているいただいています。

また、乳幼児から学童に対して、読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせなどさまざまなおはなし会を開催しています。子供たちは、その語りに夢中になって聞き入り、一人一人が想像力を膨らませ、その世界に入り込んでいます。

※ボランティアによるおはなし会などのイベントは、20ページの「図書館だより」をご覧ください。

### 図書館司書にインタビュー



行田市立図書館司書 小泉 遼さん

本は、私たちが小さいころから身近にあり、読むに当たって場所や時間、設備などの準備が必要ありません。そうした意味で読書は、誰でも簡単にいつでも始めることができます。読書をすることによって、人は本の世界の中での経験を通してイメージを広げ、感受性を育むことができます。

図書館は、目の前にある多様なジャンルの本を借りることができる「本の宝庫」だと思っています。本を購入し、いざ読んでみるとがっかりすることがあります。しかし、図書館では何度失敗しても、また違う本を無料で読むことができるのが魅力だと思います。皆さんが読みたい、おもしろいと思う本が必ずあります。ぜひ、図書館に足を運んでみてください。

### 利用に当たって

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、図書館では、閲覧席の利用制限、飛沫感染防止用のビニールシートや書籍消毒機の設置などの対策をしています。

- また、図書館に來館される際には、次の点にご協力ください。
- マスクの着用および手指の消毒を行ってください。
- 体調がすぐれない場合は、來館を控えてください。
- 人との間隔を2メートル程度取ってください。



書籍消毒機

インターネットの普及により、図書館に行かなくても本を読める時代になりました。しかし、行田市立図書館は、本を借りる場所だけでなく、さまざまな形で本と人とのつながりがあり、幅広い世代が利用できる場所でもあります。ぜひ、図書館へお越しください。

▼問い合わせ 図書館 ☎556-4227